

村山 正利 議員 (自民新国会)

第2次瑞穂町教育基本計画の進捗状況について



教育長 学校・家庭・地域による

連携・協働が課題



質問 第2次瑞穂町教育基本計画は、第1次計画の終了に伴い、その検証・総括並びに国や都の動向を踏まえ、学校教育施策の計画的な推進を図るために策定されたと理解している。策定から2年が経過し、新型コロナウイルス感染症対策の中で大きく変えざるを得ない取り組みもあったと考える。そこで、次の点について所見を伺う。
問① 今日的な義務教育の課題は。
教育長 子どもたちの「生きる力」を確実に育むこと、教育環境を整えることである。
問② 現時点での計画の進捗状況と課題は。
教育長 学校・家庭・

地域による連携・協働を実現するために設置した地域学校協働本部の取り組みを上げていくことが課題。
問③ 特別支援教育のあり方とその推進の状況は。
教育長 対象となる子どもの個々のケースに応じて丁寧に進めていく必要がある。現在、小・中学校、保育園・幼稚園への町専任相談員の派遣、個別指導計画の作成・活用、通常の学級への教育支援補助員の配置など、計画に沿って進めている。



令和4年度 瑞穂中学校で実施された体育祭

原 隆夫 議員 (公明党)

通学路等の安全対策のさらなる充実を



教育長 点検結果に基づき安全対策を推進していく



質問 令和3年9月に「ガードレールの設置など通学路等の安全対策のさらなる推進を」と題し一般質問をした。町は9月22日から27日にかけて合同点検を実施したが、現在、ホームページに掲載されて

いるのは点検箇所・状況のみで、その後の対応は、新たな課題がされていない。点検対策の実施等の基本的方針となる「瑞穂町通学路交通安全プログラム」を早期に策定し、情報提供も速やかに行うべきと考えるが、教育長の所見を伺う。
教育長 町では、合同点検の結果を、場所、学校からの意見や状況、グラムと捉えている。今後とも点検結果に基づき通学路の安全対策を推進していく。



カラー舗装された通学路 (第一小学校)

下野 義子 議員 (公明党)

交通安全対策の

取り組みを



町長 できる限りの安全確保を

講じている



質問 我が町でも残念ながら痛ましい事故が発生している。歩行者や自転車、車のドライバーそれぞれがルールを守ることで、道路環境を適切に管理・整備することで事故防止につながられる。住民の命を守るための取り組みについて町長の所見を伺う。
問① 自転車講習の定期実施 (小中学生・一般) は。
町長 小学生は3年生を対象に自転車講習、中学生はスタントマンの演技を交えた交通安全教室、町民対象の講習会は春と秋に実施している。
問② 地域ごとの交通安全教室の実施や交通ルールの啓発とさらな

る工夫は。
町長 講習会や啓発については、各地域が主体となつて、警察、交通安全推進協議会と連携して実施するようお願いしたい。
問③ 道路管理・整備の推進は。
町長 できる限り安全確保を講じている。
問④ 狭あいな交差点の改良は。
町長 改良が可能な場合、優先的に予算配分をして工事に臨む。
問⑤ 都市計画道路の整備推進は。
町長 福生3・5・24号線 (武蔵地区の基地沿い)、区画整理地内の都市計画道路の整備に取り組んでいる。

榎本 義輝 議員 (自民誠和会)

プラスチック資源循環促進法の施行に伴いやるべきことは



町長 資源循環型社会の構築に努める

質問 プラスチック製品の設計から廃棄物の処理までの商流すべてにおける資源循環等の取り組みを促進するための法律が2021年6月に公布され、2022年4月に施行された。

現在プラスチックごみは海洋に1億5000万トンあるといわれ、これはプラスチックごみ全体の10%程度で残りは地上にあるとされている。町では分別収集を行い、リサイクルに取り組んでいる。さらなる対策が必要と考えるが所見を伺う。
町長 区部と比較して多摩地域の市町村の再資源化の取り組みは先行し、中でも瑞穂町はプラスチック資源化では上位に位置している。しかし、全量を再資源化できてはいない。プラスチックの再資源化の取り組みは、単独自治体でなく、広域での対策と再資源化を図るべきと考えるが、実現には時間を要すると思われる。そのため、排出分類と再資源化方法、処理方法について検討し、新たな収集方式を考え、再資源化の動きを進めるべきと考える。これからの循環型社会の構築に努めていく。



容器包装プラスチックの分別確認作業 (リサイクルプラザ)

交通安全教室の様子



昨年実施された交通安全教室の様子